

授業科目	生命現象としくみ (生物・生化学)	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	現在の医療は細胞・分子レベルで拡大している。生化学での学習内容は医療の共通言語であり、人体の正常機能を理解するための礎となる。また薬理学、微生物学等の理解へつながり、正常を知ることによって異常を理解を深める。そして、対象の理解と実践につながる内容である。また、生化学を学ぶには生物学の知識も必要であることから、生物学の基礎的内容を包含して設定した。		
目的	生命現象を引き起こす目には見えない物質とその化学反応について学ぶ		
目標	1.生物体としての人間を理解する 2.人間の進化について理解する 3.生物代謝を理解する 4.遺伝子情報とその発現・伝達を理解する 5.生命倫理について考える姿勢を養う		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>生化学：医学書院 <系統看護学講座基礎分野>生物学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	生命体のつくりと働き	生体の化学の基礎知識を学ぶ	・生命体のつくりとはたらき	講義	
2	生体維持とからだのなりたち	代謝の仕組みを学ぶ	・生体維持のエネルギー ・細胞の増殖とからだのなりたち	講義	
3	個体の調節	個体の調節を学ぶ	・個体の調節	講義	
4	刺激の受容と行動	刺激の受容と行動を学ぶ 行動について学ぶ	・刺激の受容と行動	講義	
5	代謝の基礎と酵素・補酵素	生体の化学の基礎知識を学ぶ	・生化学を学ぶための基礎知識 ・代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	
6	糖質の構造と機能	糖質代謝のしくみを学ぶ	・糖質の構造と機能 ・糖質代謝	講義	
7	脂質の構造と機能	脂質代謝のしくみを学ぶ	・脂質の構造と機能 ・脂質代謝	講義	
8	タンパク質の構造と機能	タンパク質代謝のしくみを学ぶ	・タンパク質の構造と機能 ・タンパク質代謝	講義	
9	ポルフィン代謝と異物代謝	ポルフィン代謝と異物代謝のしくみを学ぶ	・ポルフィン代謝と異物代謝	講義	
10	遺伝情報とその伝達	遺伝子と情報伝達について学ぶ	・遺伝子と核酸	講義	
11		遺伝子と情報伝達について学ぶ	・遺伝子の複製・修正・組み換え	講義	
12		遺伝子と情報伝達について学ぶ	・転写 ・翻訳と翻訳後修飾	講義	
13	細胞のシグナル伝達とがん	細胞のシグナル伝達とがんの発生について学ぶ	・細胞シグナル ・がんの性質	講義	
14	生命の進化と多様性	生物としてのヒトの生命機能の進化について考える	・生命の進化と多様性 ・生物と環境の関わり、地球環境とヒトとの共存	講義	
15	テスト				

授業科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論・運動器・呼吸器）	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	人体の解剖と生理は看護師が対象の健康状態を身体的側面から理解する上で重要な基礎となるものである。しかし人体を解剖と生理を分けて理解することは難しい。そこで、本科目は人体の構造と機能を融合させた科目とした。学習者は初めて健康状態を知る手がかりとしての人体を学ぶ。よって、総論を含め4つの科目に分け系統的に学ぶことができるように設定した。		
目的	人体の構造と機能を理解し、看護の対象の身体的理解を深める		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の発生を理解する 2. 人体を構成する運動器の構造と機能を理解する 3. 人体を構成する呼吸器の構造と機能を理解する 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>解剖生理学：医学書院 新版からだの地図帳：講談社		
参考図書	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	総論	解剖生理学を学ぶための基礎知識を理解する	1.解剖生理学を学ぶための基礎知識 ・人体とは ・人体の素材としての細胞・組織	講義	
2		解剖生理学を学ぶための基礎知識を理解する	・機能からみた人体	講義	
3	身体の支持と運動	骨格について理解する	2.からだの支持と運動（骨と筋） ・骨格とは ・骨の連結	講義	
4		骨格について理解する	・骨格筋	講義	
5		体幹の骨格と筋について理解する	3.体幹の骨格と筋 ・体幹の骨	講義	
6		体幹の骨格と筋について理解する	・体幹の筋	講義	
7		上肢の骨格と筋について理解する	4.上肢の骨格と筋 ・上肢の骨格	講義	
8		上肢の骨格と筋について理解する	・上肢の筋	講義	
9		下肢の骨格と筋について理解する	5.下肢の骨格と筋	講義	
10		頭頸部の骨格と筋について理解する	6.頭頸部の骨格と筋の機能	講義	
11	呼吸のしくみ	呼吸器の構造について理解する	7.呼吸器の構造と機能（上気道：鼻、咽頭、喉頭、発声と構音、下気道と肺、胸膜・縦隔）	講義	
12		呼吸器のガス交換について理解する	・呼吸器の機能（呼吸運動、ガス交換）	講義	
13		呼吸器の換気について理解する	・呼吸器の機能（換気、肺胞換気）	講義	
14	まとめ				
15	テスト				

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ（腎・泌尿器、生殖器、内分泌、感覚器）	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	人体の解剖と生理は看護師が対象の健康状態を身体的側面から理解する上で重要な基礎となるものである。しかし人体を解剖と生理を分けて理解することは難しい。そこで、本科目は人体の構造と機能を融合させた科目とした。学習者は初めて健康状態を知る手がかりとしての人体を学ぶ。よって、総論を含め4つの科目に分け系統的に学ぶことができるように設定した。		
目的	人体の構造と機能を理解し、看護の対象の身体的理解を深める		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する腎臓・泌尿器の構造と機能を理解する 2. 人体を構成する生殖器の構造と機能を理解する 3. 人体を維持する自律神経やホルモンの調整を理解する 4. 人体を構成する感覚器の構造と機能を理解する 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>解剖生理学：医学書院 新版からだの地図帳：講談社		
参考図書	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	体液の調整と尿の生成	体液の調節と尿の生成について理解する	1. 体液の調節と尿の生成 ・水の性質とその重要性 ・腎血流量と糸球体濾過量 ・排尿のメカニズム	講義	
2		体液の調節と尿の生成について理解する	・排尿路 ・体液の調節	講義	
3	生殖・発生と老化	男性生殖器の構造について理解する	2. 生殖・発生のしくみ ・男性生殖器の構造	講義	
4		男性生殖器の機能について理解する	・男性生殖器機能	講義	
5		女性生殖器の構造と機能について理解する	・女性生殖器の構造	講義	
6		受精・胎児の発生について理解する	・受精と胎児の発生	講義	
7	内臓機能の調節	内臓機能の調節について理解する	3. 内臓機能の調節 ・自律神経による調節 ・内分泌系による調節 ・全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義	
8		内臓機能の調節について理解する	・自律神経による調節 ・内分泌系による調節 ・全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義	
9		内臓機能の調節について理解する	・ホルモン分泌の調節	講義	
10		内臓機能の調節について理解する	・ホルモンによる調節の実際	講義	
11	情報の受容と処理	感覚器について理解する	4. 情報の受容と処理（感覚器；眼、耳） ・感覚器	講義	
12		感覚器について理解する	・眼の機能と視覚	講義	
13		感覚器について理解する	・耳の構造	講義	
14		感覚器について理解する	・聴覚・平衡覚	講義	
15	テスト				

授業科目	人体の構造と機能Ⅲ（血液・循環器）	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	人体の解剖と生理は看護師が対象の健康状態を身体的側面から理解する上で重要な基礎となるものである。しかし人体を解剖と生理を分けて理解することは難しい。そこで、本科目は人体の構造と機能を融合させた科目とした。学習者は初めて健康状態を知る手がかりとしての人体を学ぶ。よって、総論を含め4つの科目に分け系統的に学ぶことができるように設定した。		
目的	人体の構造と機能を理解し、看護の対象の身体的理解を深める		
目標	1. 人体を構成する血液の構造と機能を理解する 2. 人体を構成する循環器の構造と機能を理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>解剖生理学：医学書院		
参考図書	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	血液	血液について理解する	1血液 ・血液の組成と機能 ・赤血球、白血球、血小板 ・血漿タンパク質と赤血球沈降速度 ・血液の凝固と繊維素溶解 ・血液型		
2	血液の循環とその調節 ・心臓	心臓の構造について理解する	2.循環器系（心臓、脈管系） 1)心臓；一般的事項、構造（心室、心房、弁、内腔）	講義	
3		心臓の機能について理解する	心臓；一般的事項、構造（心室、心房、弁、内腔）と機能	講義	
4	・冠状循環系	冠状循環系の構造について理解する	2)心臓；心膜、冠状循環系（冠動脈、冠静脈）、神経	講義	
5		冠状循環系の機能について理解する	心臓；心膜、冠状循環系（冠動脈、冠静脈）の機能神経	講義	
6	・血管	血管の構造について理解する	3)血管壁の構造（動脈、静脈、毛細血管）	講義	
7		血管の機能について理解する	血管の役割	講義	
8	・肺循環	肺循環について理解する	4)肺循環（動脈系）	講義	
9	・体循環（動脈系）	体循環について理解する	体循環（動脈系）	講義	
10	・体循環（静脈系）	体循環、胎児循環について理解する	5)体循環（静脈系）、胎児の血液循環と胎盤	講義	
11		体循環、胎児循環について理解する	体循環（静脈系）、胎児の血液循環と胎盤	講義	
12	・リンパ系	リンパ系の構造について理解する	6)リンパ（管）系；リンパ管、リンパ節、リンパ循環、胸管、脾臓、胸腺	講義	
13		リンパ系の機能について理解する	リンパ（管）系；リンパ管、リンパ節、リンパ循環、胸管、脾臓、胸腺	講義	
14	まとめ			講義	
15	テスト				

授業科目	人体の構造と機能Ⅳ (脳神経・消化器)	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	人体の解剖と生理は看護師が対象の健康状態を身体的側面から理解する上で重要な基礎となるものである。しかし人体を解剖と生理を分けて理解することは難しい。そこで、本科目は人体の構造と機能を融合させた科目とした。学習者は初めて健康状態を知る手がかりとしての人体を学ぶ。よって、総論を含め4つの科目に分け系統的に学ぶことができるように設定した。		
目的	人体の構造と機能を理解し、看護の対象の身体的理解を深める		
目標	1.人体をつかさどる脳神経の構造と機能を理解する 2.人体を構成する消化器の構造と機能を理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>解剖生理学：医学書院		
参考図書	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	神経系	神経系の機能について理解する	1.神経系 1)一般的事項、神経細胞、神経線維、シナプス(神経接合部、終板)、神経膠細胞	講義	
2	神経系 (中枢神経)	中枢神経系の機能について理解する	2)中枢神経系；脳(脳幹、間脳、小脳、大脳、髄膜、脳脊髄液の循環)・脊髄の機能	講義	
3		中枢神経系について理解する	2)中枢神経系；脳(脳幹、間脳、小脳、大脳、髄膜、脳脊髄液の循環)・脊髄	講義	
4	神経系 (末梢神経)	末梢神経系の機能について理解する	3)末梢神経系；脊髄神経(神経叢)、脳神経の機能	講義	
5		末梢神経系について理解する	3)末梢神経系；脊髄神経(神経叢)、脳神経	講義	
6	神経系 (自律神経)	自律神経系の機能について理解する	4)自律神経系；(交感神経、副交感神経)特殊感覚(視覚器、平衡・聴覚器、嗅覚器)	講義	
7		自律神経系について理解する	4)自律神経系；(交感神経、副交感神経)特殊感覚(視覚器、平衡・聴覚器、嗅覚器)	講義	
8	栄養の消化と吸収	消化器系の機能について理解する	2.消化器系 1)一般的事項、中空性(管腔性)器官、実質性器管	講義	
9		口腔、咽頭、食道、胃の機能について理解する	2)咀嚼・嚥下、胃の働き	講義	
10		口腔、咽頭、食道、胃について理解する	3)口腔(舌、歯、唾液線)、咽頭、食道、胃	講義	
11		小腸、大腸の構造について理解する	4)小腸・大腸の働き 消化と吸収・排便	講義	
12		小腸、大腸の機能について理解する	5)小腸(十二指腸、空腸、回腸)、大腸(上行・横行・下行・S字結腸、直腸、肛門)	講義	
13		肝臓、胆嚢、膵臓の機能について理解する	6)肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜、腹膜外器官の働き	講義	
14		肝臓、胆嚢、膵臓について理解する	6)肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜、腹膜外器官	講義	
15	テスト				

授業科目	微生物学	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	生きるために微生物は不可欠である。しかし、感染症として人間に不幸な影響を与える面を持つ。人類の歴史は感染症との戦いの歴史であるとも言われる。人間が微生物と付き合い病原微生物に対処するには、微生物の正体を知り人間自身の守る力を知ることが重要である。		
目的	病原微生物の性質と感染症の現状と対策を学ぶ		
目標	1.微生物の特徴を理解する 2.感染症の診断・治療・対策を理解する 3.病原微生物とそれがもたらす疾患を理解する 4.人間を病原微生物から守る意識を高める		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>微生物学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	微生物と微生物学	微生物の発見と人間との関係について学ぶ	・微生物の性質 ・近代微生物学	講義	
2	細菌・真菌の性質	細菌と真菌の性質を学ぶ	・細菌の形態と特徴、分類 ・真菌の形態と特徴、分類	講義	
3	原虫・ウイルスの性質	原虫とウイルスの性質を学ぶ	・ウイルスの形態と特徴、分類 ・原虫の特徴と種類	講義	
4	感染と感染症	感染の機序を学ぶ	・感染の成立から発症・治癒 ・感染の機構	講義	
5	感染に対する生体防御機構	感染に対する生体防御機構を学ぶ	・自然免疫のしくみ ・獲得免疫のしくみ	講義	
6	感染源・感染経路からみた感染症と面筋・消毒	感染経路と感染防止について学ぶ	・経口感染、経気道感染、接触感染、経皮感染、母子感染 ・バイオハザードとバイオセーフティ ・滅菌、濾過除菌、消毒	講義	
7	感染症の検査と診断	感染症の原因微生物を明らかにする方法を学ぶ	・病原体の検出する方法 ・生態の反応から診断する方法	講義	
8	感染症の治療	感染症の治療方法について学ぶ	・化学療法の基本と化学療法薬 ・その他の治療法	講義	
9	感染症の現状と対策	文明の発達と感染症について学ぶ	・感染症の変遷 ・感染症の現状と問題点 ・感染症への対策（感染症法他、検疫、感染症予防、ワクチンと予防接種）	講義	
10	病原細菌と細菌感染症	病原細菌の特徴とその感染症について学ぶ	・グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性桿菌、グラム陽性桿菌、カンピロバクター属、ヘリコバクター属	講義	
11		病原細菌の特徴とその感染症について学ぶ	・抗酸菌と放線菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイクプラズマ、リケッチア目、クラミジア科	講義	
12	病原ウイルスとウイルス感染症	DNAウイルスとその感染症について学ぶ	・DNAウイルス	講義	
13		RNAウイルスとその感染症について学ぶ	・RNAウイルス	講義	
14	病原原虫・病原真菌と感染症	病気をもたらす原虫と真菌について学ぶ	・深在性真菌症と表在性真菌症 ・根足虫類、鞭毛虫類、孢子虫類、線毛虫類	講義	
15	テスト				

授業科目	薬理学	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	薬はあらゆる健康状態に用いられ、特に疾患の治療においては欠かせない。しかし、薬物使用には有益性と危険性をはらんでいる。そのため薬の特徴と作用機序を理解し効果を最大限かつ安全に用いなければならない。そこで、薬理の基礎的知識を学び、看護により最大限の作用と副作用を最小限に抑えることができるよう科目を設定した。		
目的	対象の健康状態に応じた薬物治療の有効性と安全性を守るために、薬理学の基礎的知識を学ぶ		
目標	1.薬の作用する仕組みや体内挙動・相互作用を理解する 2.薬の管理を理解する 3.代表薬とその作用機序を理解する 4.薬物治療における看護師の役割を考える		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>薬理学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	薬理学総論①	薬物療法の目的、作用について理解する①	薬理学総論 (1)	講義	
2	薬理学総論②	薬物療法の目的、作用について理解する②	薬理学総論 (2)	講義	
3	末梢神経①	自律神経系に作用する薬物について理解する	末梢での神経活動に作用する薬物 (1)	講義	
4	末梢神経②	自律神経系・中枢神経に作用する薬物について理解する	末梢での神経活動に作用する薬物 (2) 中枢神経に作用する薬物 (1)	講義	
5	循環器	心臓・血管系に作用する薬物について理解する	心臓・血管系に作用する薬物	講義	
6	呼吸器	呼吸器系に作用する薬物について理解する	呼吸器系に作用する薬物	講義	
7	抗感染症薬	抗感染症薬について理解する	抗感染症薬	講義	
8	抗がん薬	抗がん薬について理解する	抗がん薬	講義	
9	免疫治療薬	免疫治療薬について理解する	免疫治療薬	講義	
10	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬・抗炎症薬について理解する	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
11	中枢神経①	中枢神経に作用する薬物について理解する①	中枢神経に作用する薬物 (2)	講義	
12	中枢神経②	中枢神経に作用する薬物について理解する②	中枢神経に作用する薬物 (2)	講義	
13	薬物代謝	物質代謝に作用する薬物について理解する	物質代謝に作用する薬物	講義	
14	皮膚科・眼科・救急時の薬剤・漢方・消毒薬	皮膚科・眼科・救急時に使用される薬物、漢方薬、消毒薬について理解する	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	講義	
15	テスト				

授業科目	病態生理学	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	身体を構成している細胞・組織・器官が正常な形態を保ち、的確に生理機能を果たすことで健康な生活を営むことができる。しかしこの形態や生理機能に異常な変化が生じることで症状や徴候といった病的な状態が引き起こされる。その仕組みを知ることは疾病各論の理解を深め、対象への援助を行う根拠として重要である。		
目的	生理機能の特徴を踏まえ症状・徴候や疾患の病態生理を学ぶ		
目標	1.身体機能障害のメカニズムについて理解する 2.各異常によって起こる症候を理解する 3.それぞれの病態を把握する方法を理解する 4.機能障害をもたらす身体内部の変化や特性について理解する 5.疾病の理解を深める姿勢を養う		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>病態生理学：医学書院 <系統看護学講座専門基礎分野>病理学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	病理・病因論	正常と病気の状態	正常性をゆがめる要因 破綻からの回復	講義	
2	細胞・組織の障害	適応と損傷	適応と損傷について	講義	
3	細胞・組織の障害	炎症	炎症について	講義	
4	細胞・組織の障害	循環障害	虚血と梗塞 充血・うっ血・浮腫・出血	講義	
5	細胞・組織の障害	感染症	感染症について	講義	
6	腫瘍	腫瘍	腫瘍について	講義	
7	先天異常と遺伝性疾患	先天異常と遺伝性疾患	先天性異常、遺伝性疾患について	講義	
8	老化と死	老化と死	老化について 死（全身死、脳死）	講義	
9	種々の病態と病気	講義で学習した内容の理解を深める	過去の国家試験をとおして重要事項を確認する	演習	
10	種々の病態と病気	講義で学習した内容の理解を深める	過去の国家試験をとおして重要事項を確認する	演習	
11	種々の病態と病気	講義で学習した内容の理解を深める	過去の国家試験をとおして重要事項を確認する	演習	
12	種々の病態と病気	講義で学習した内容の理解を深める	過去の国家試験をとおして重要事項を確認する	演習	
13	種々の病態と病気	講義で学習した内容の理解を深める	過去の国家試験をとおして重要事項を確認する	演習	
14	種々の病態と病気	講義で学習した内容の理解を深める	過去の国家試験をとおして重要事項を確認する	演習	
15	テスト				

授業科目	看護と物理	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	私たちは健康を維持・管理するために体を動かしたり、温めたり冷やしたり、寝具に気を使ったりしている。また、健康状態を把握するための体温や血圧などのデータや画像は物理学の応用による装置によって得られている。このように何げなく経験し、当たり前としている日常生活には物理学の法則が潜み、物理・工学の原理や応用は医療を支えることを通じて人々の健康に寄与している。本科目では生活や健康支援に関わる視点から物理の基礎知識を学ぶ。		
目的	生活における物理現象と健康に関わる物理学の基礎知識を学ぶ		
目標	1.運動と力について理解する 2.熱について理解する 3.音と光について理解する 4.電気と磁気について理解する 5.放射線について理解する 6.看護における物理の知識の必要性を体感する		
評価方法	筆記試験（1～6回:44点・7～14回：56点）		
使用テキスト	<系統看護学講座基礎分野>物理学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	物理学と看護技術および病態との関係	物理学と看護技術および病態の関係について理解する	物理学と看護技術および簡単な病態との関係について力学について	講義	1～6:理学療法士より講義
2	重心と支持基底面	重心と支持基底面について理解する	重心・支持基底面の関係、ニュートンの法則について	講義	
3	ベクトルとスカラー	ベクトル・スカラーについて理解する	ベクトル・スカラーについて	講義	
4	トルクと位置エネルギー	トルク・位置エネルギーについて理解する	トルク・位置エネルギー・運動エネルギーについて	講義	
5	紫外線・放射線と画像検査	紫外線・放射線と画像検査について理解する	紫外線・放射線について、胸部X線写真の見方、シネアングロ、超音波について	講義	
6	トランスファーと体位変換	バイオメカニクスを通じて看護技術への理解を深める	授業内容を応用しながらの実技演習（トランスファー・体位変換）	講義・演習	基礎看護実習室
7	熱の性質や電気	熱の性質や電気について理解する	熱の性質、水の状態、電気	講義	7～14：臨床工学技士より講義
8	圧力の基礎知識	圧力について理解する	圧力の考え方、単位、褥瘡とエアマット、血圧、酸素、モニター、低圧持続吸引器	講義	
9	血圧に関する知識	血圧について理解する	観血血圧と非観血血圧、水銀血圧計、紫外線、心臓カテーテル検査、超音波	講義	
10	ネブライザーや医療ガス・酸素ボンベ	ネブライザーや医療ガス・酸素ボンベについて理解する	ネブライザー、病院内の医療ガス、酸素ボンベの考え方と取り扱い方、酸素療法時の加湿、高気圧酸素療法	講義	
11	気圧と輸液	気圧と輸液について理解する	気圧と水圧、密度と比重、肺のガス交換、輸液ポンプ・シリンジポンプについて	講義	
12	消毒と滅菌	消毒と滅菌について理解する	消毒と滅菌、オートクレーブの原理 EOG滅菌について、内視鏡装置	講義	
13	酸とアルカリ	酸、アルカリについて理解する	酸、アルカリについて、薬剤の濃度、当量、検査値の値について	講義	
14	拡散と浸透圧	拡散、浸透圧、内視鏡装置について理解する	拡散作用、浸透圧、等張液の考え方、血液浄化	講義	
15	テスト				

授業科目	医療概論	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	医療人となる学生が医療とは何か、設置主体の理念である生命の尊厳とはどのようなことを学ぶ科目である。多くの学生は受診等で医療に触れていると思われる。その医療の歴史や仕組み、経済的視点や政策との関連を学ぶ。また、医療人として理解したい「倫理」や「生命倫理」について考えを深める。		
目的	医療とは何か、その目的と原点について学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊厳について考える。 2. 医療の提供の仕組みを理解する。 3. 倫理や医療人としての倫理を理解する。 4. 現代の医療の諸問題と医療継続のための仕組みを理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門基礎分野>医療概論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	医学と医療	医学の歴史から現代の医学を理解する	医学の歴史 科学としての医学、エビデンスとは 保健・福祉と医療との関係	講義	
2	医療経済と医療政策	医療を良くするための活動を考える	経済から見た医療 政策から見た医療 医療人が持つべき視点	講義	
3	地域における医療施設の役割	地域における医療施設が果たす役割を理解する	地方都市にある医療施設が果たした役割 地域医療構想 地域医療施設の展望	講義	
4	生命の尊厳	生命の尊厳について考える	生命の尊厳とは	講義	
5	生命倫理	現代の医療に関わる諸問題を考える	医の倫理、東洋と西洋の生命観と医療 医療安全とは 最先端医療とは	講義	
6		人体の部品化について考える	人体の資源化・商品化、 臓器移植、臓器売買、 再生医療、尊厳死と安楽死	講義	
7		生命の操作について考える	脳死と死の基準と命の価値 遺伝子・ヒトゲノム、出生前診断、代理出産 貧困と医療、医療資源の配分	講義	
8	テスト				